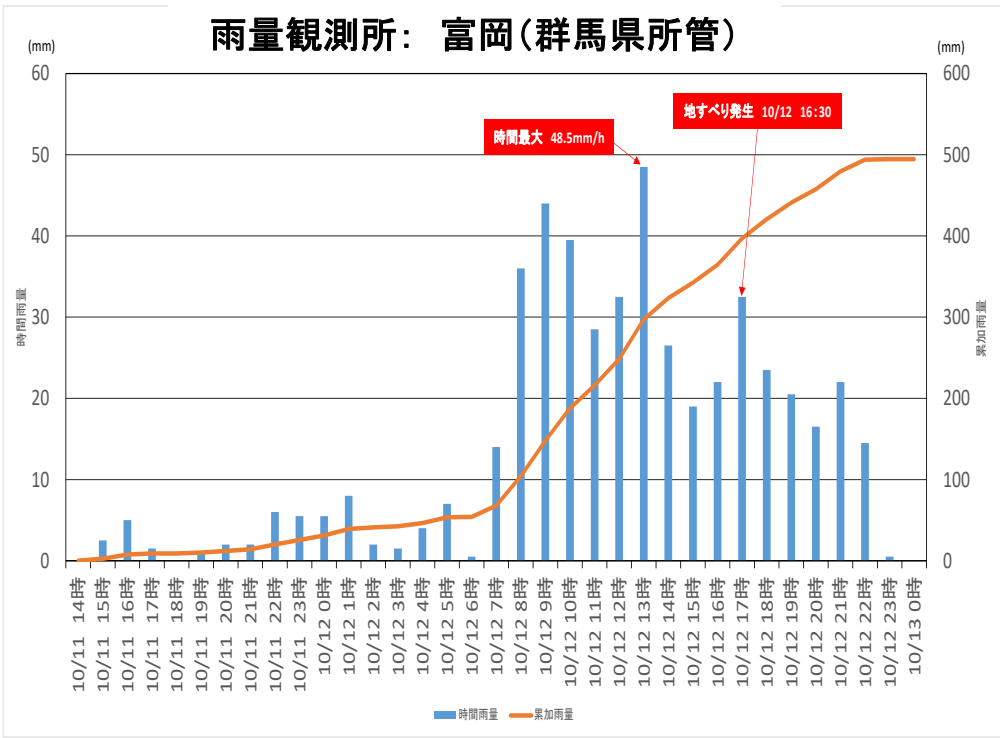
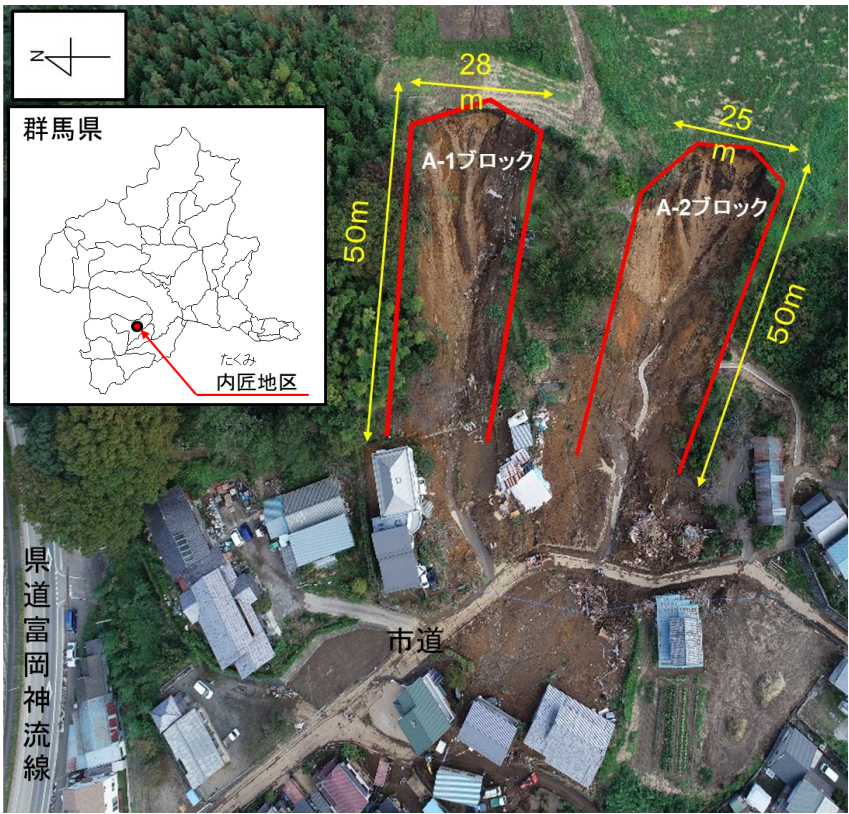


令和元年10月 群馬県富岡市内匠地区における崩壊性地すべり
(土木研究所からの話題提供)

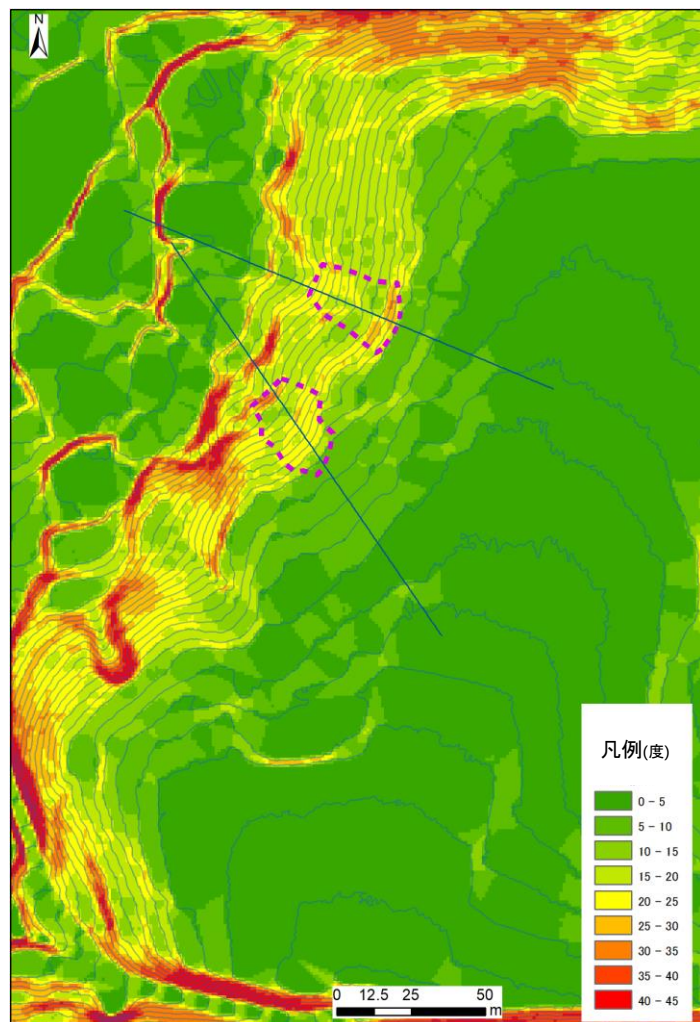
富岡市内匠地区で発生した土砂災害

発生日時	令和元年10月12日 16:30
人的被害	死者：3名、負傷者：3名
人家等被害	全壊：1戸、半壊：5戸、非住家全壊：1戸
連続雨量	494.5mm (10/11 14:00～10/12 23:00)
最大時間雨量	48.5mm (10/12 12:00～10/12 13:00)

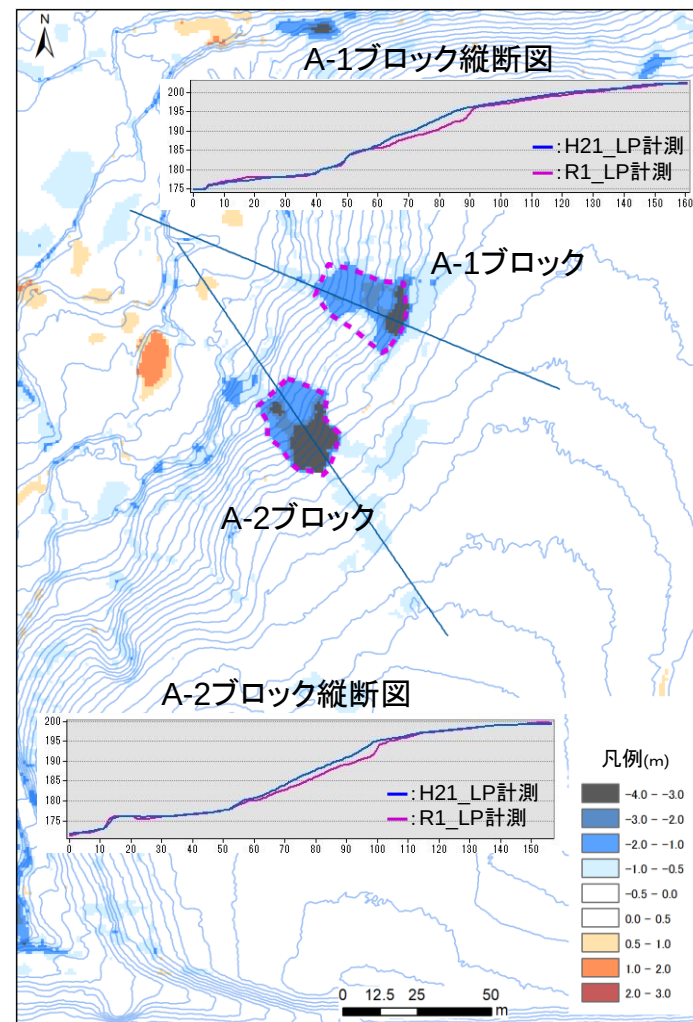


資料：群馬県

- 崩壊性地すべりが発生した斜面は15～25度の比較的緩い斜面であった。
- 崩壊性地すべりの深さは最大で3～4m程度。



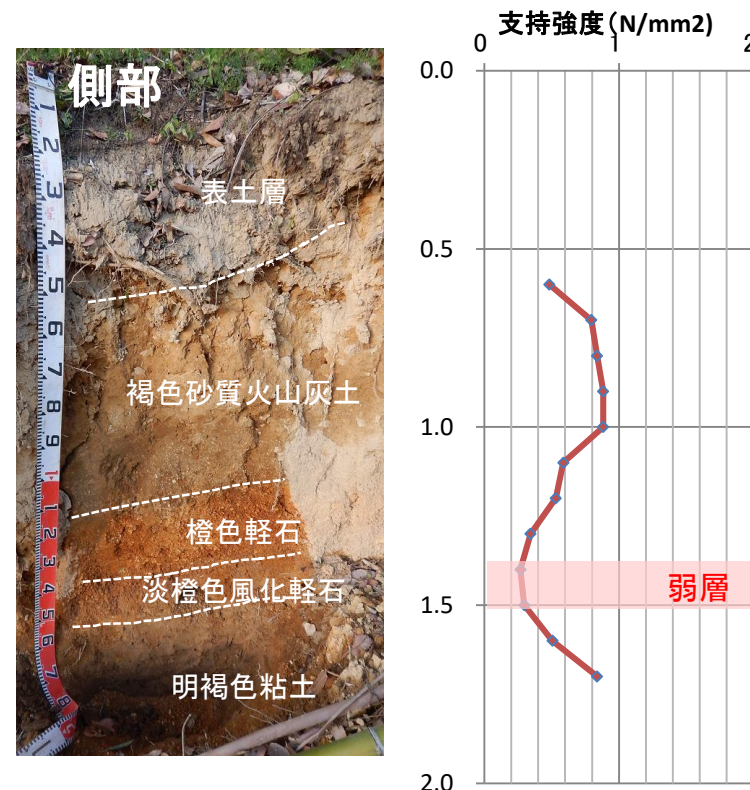
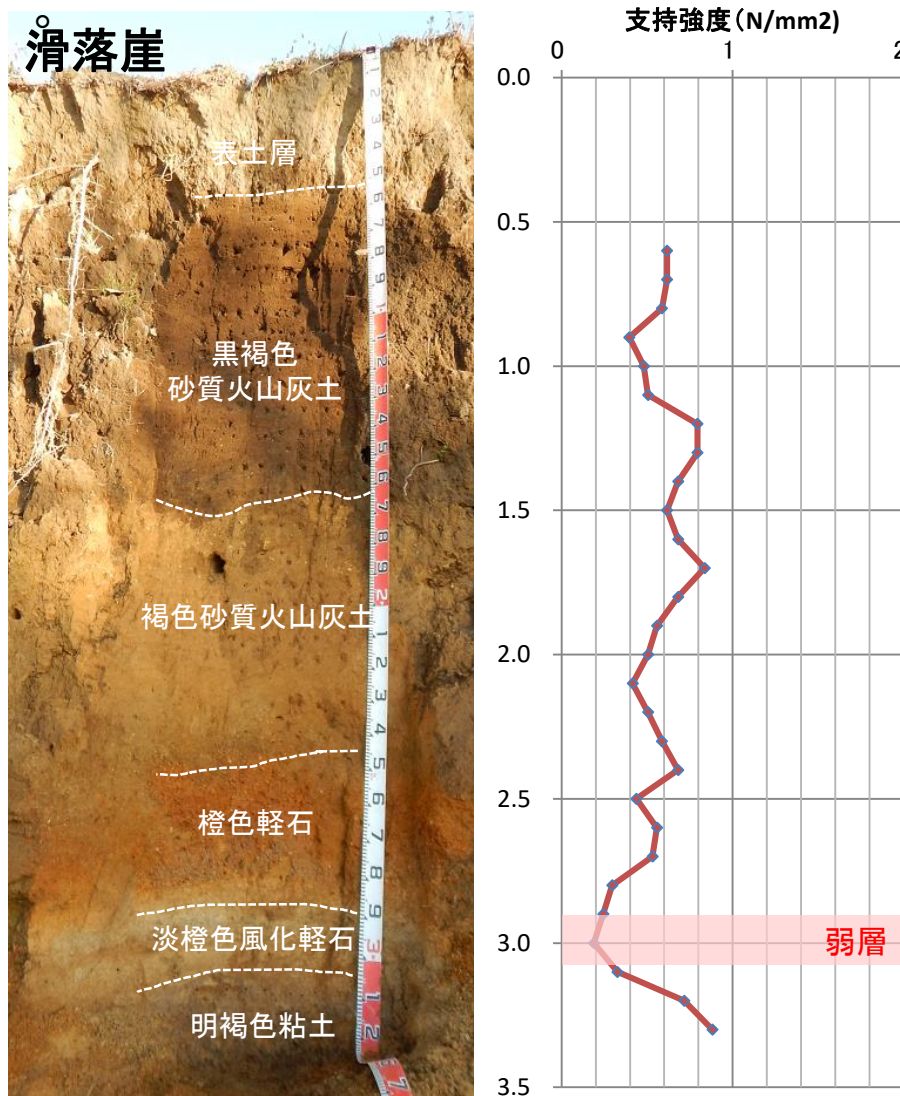
発生前地形の傾斜量図



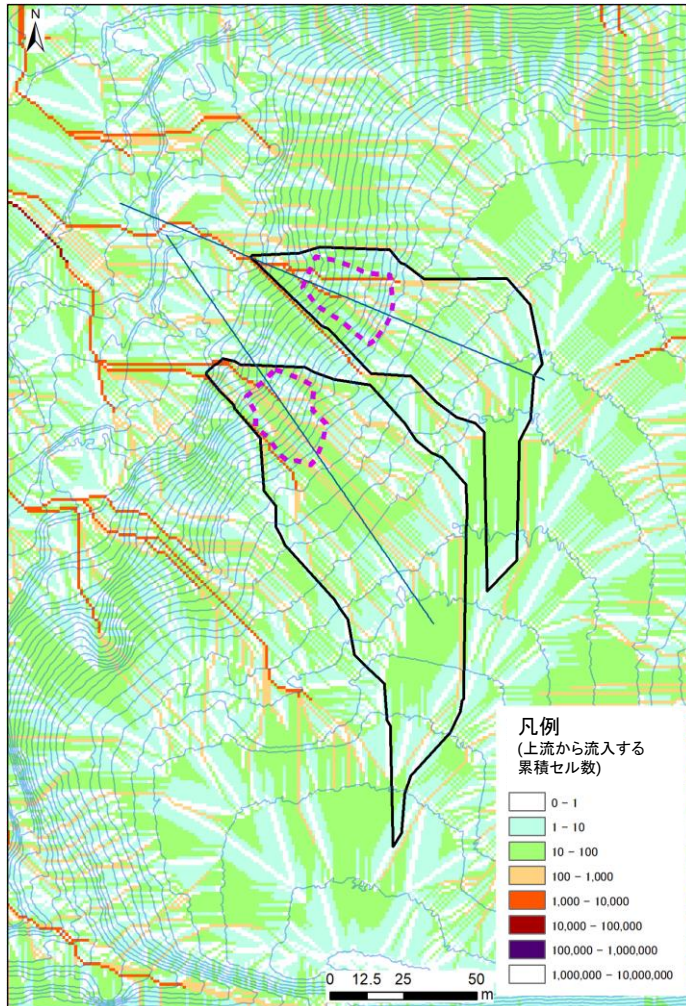
発生前後の標高差分

発生前: H21(利根川水系砂防)
発生後: R1(群馬県)

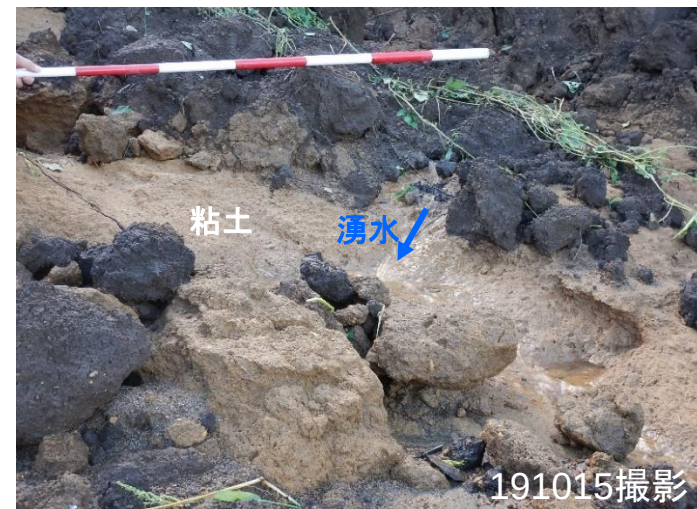
- 強度の小さい風化軽石層が斜面に沿って流れ盤状に堆積。
- 風化軽石層の上位は透水性の高い軽石や砂質火山灰土、下位は透水性の低い粘土



- 斜面の上位に広い緩斜面が存在し、集水面積が比較的大きい。
- 現地ではパイプと推定される穴が確認され、また崩壊直後には湧水も確認された。



各メッシュの集水面積(発生前地形:H21)



- 風化軽石層が斜面に沿って堆積（流れ盤状態の弱層）
- 風化軽石層の上位は透水性の高い軽石や砂質火山灰土、下位は透水性の低い粘土であり、風化軽石層に間隙水圧がかかりやすい条件
- 斜面上位に位置する広い緩斜面（集水面積が比較的大きい）

